情報通信審議会　郵政政策部会
郵便事業政策委員会（第３回）議事録

１　日 時　令和８年 10 月 14 日（水）17 時 01 分～17 時 42 分

２　場 所　Web 会議

３　出席者

（１）構成員（敬称略）

竹内　健蔵（主査）、高橋　賢（主査代理）、桑津　浩太郎、東條　吉純、
木村　たま代、小林　味愛、三尾　美枝子

（２）事務局

柴山　佳徳（郵政行政部長）
折笠　史典（郵政行政部　企画課長）
渡部　祐太（郵政行政部　企画課　信書便事業室長）
高田　裕介（郵政行政部　郵便課長）
笹川　裕加（郵政行政部　郵便課　課長補佐）

４　議 題

今後の議論の進め方について

開　　会

○笹川郵便課課長補佐　　事務局でございます。ただいまから情報通信審議会郵政政策部会郵便事業政策委員会の第３回会合を開催いたします。

会議開始に先立ちまして、御案内をさせていただきます。本日はオンライン会議による開催となりますことから、皆様が発言者を把握できるようにするため、御発言いただく際には冒頭にお名前をお伝えいただきますようお願いいたします。また、ハウリングなどの防止のため、発言時以外はマイクをミュートにしていただきますよう、併せてお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

桑津委員がまだいらしていないのですが、定刻になりましたので始めさせていただければと思っておりまして、委員会の議事進行につきまして、竹内主査よりよろしくお願いいたします。

○竹内主査　　竹内でございます。皆様、お忙しいところお集まりくださいまして、ありがとうございます。

本日は、桑津委員だけ後で見えられると思いますが、そのほかの皆様、全員御出席でいらっしゃいます。

議　　題

今後の議論の進め方について

○竹内主査　　では、これより議事を進めたいと思います。

本日は前回の日本郵便株式会社のヒアリングも踏まえまして、今後の議論の進め方についてディスカッションを行っていきたいと思います。まず、事務局から御説明をお願いいたしたいと思います。お願いします。

○渡部企画課信書便事業室長　　事務局でございます。資料３－１に基づきまして、今後の議論の進め方の案について御説明をさせていただきます。

まず、冒頭で、前回までの御議論を踏まえまして、今後の検討に当たっての基本的な考え方を整理しております。

１点目として、郵便サービスは、ユニバーサルサービスとして国民生活や経済活動にとって重要な役割を果たしてきたことを踏まえ、その在り方の検討に当たっては、まず利用者や地域社会への影響を考慮することが重要ではないかとしております。

２点目として、将来にわたって安定的・持続的な運営を確保していくためには、日本郵便における徹底的なコスト削減や収益拡大努力など、現行制度において速やかに実施可能な方策への取組状況も踏まえつつ、制度の在り方を含めた多角的な方策を検討すべきではないかとしております。

その上で、以上の点について、郵便サービスの利用者たる国民の意見を広く募るとともに、サービスのステイクホルダーや専門的知見を有する者へのヒアリング、さらには、利用者へのアンケートを通じて検討を深めていきたいとしてございます。

こうした基本的な考え方の下で、当面は、以下にありますような公開による意見募集と関係団体・事業者等へのヒアリングを実施してはどうかと考えております。

まず、１点目の公開による意見募集につきましては、国民に広く意見や提案を募集し、本委員会における今後の検討に活用する趣旨で実施するものでございます。

内容としては、今回の諮問における検討項目である２項目を対象としまして、①の利用者ニーズを踏まえた郵便サービスの在り方については、ユニバーサルサービスとしての郵便サービスに対するニーズや、サービス水準、種類の在り方、さらには、郵便サービスの付加価値向上のための方策、ニーズ等に関する意見を募集できればと思います。

②の今後の郵便ネットワークの維持に向けた課題及びその対応については、郵便事業の安定的・持続的な運営と、確保すべきサービス水準のバランスについての認識、とりわけ条件不利地域における持続可能な引受・配達方法等の在り方についての考えを募りたいと考えてございます。

続いて、２点目の関係団体・事業者等へのヒアリングでございます。以下の類型、基準により実施していきたいと考えております。

具体的には、郵便サービスの利用者として、消費者の団体や、大口利用者たる法人・自治体等の公的機関、それから、郵便サービスの提供者として、日本郵政、日本郵便、労働組合等、郵便サービスに係る関連事業者として、日本郵便と協業・連携を行う事業者等、最後に、その他郵便サービスを取り巻く環境に係る有識者として、海外事情等に通じたシンクタンク等を想定しているところでございます。

以上のような形で、当面各方面から広くインプットをいただきながら今後の議論を進

めていくことについて、本日御審議いただければと思います。

続けまして、本日は参考資料１、参考資料２といたしまして、前回会合までいただいた宿題事項に関連した資料をおつけしてございます。

まず、参考資料１については、１世帯当たりの郵便料の消費支出でございまして、前回会合で大口の法人利用との関連で、国民１人当たりの郵便に関する支出の推移を示してほしいといった指摘を頂戴しておりましたので、それに対応するものとして御用意させていただきました。

日本郵便によりますと、郵便物の約８割が法人の大口利用で、残りの約２割が個人利用となっております。

この個人利用における郵便サービスの家計負担について、家計調査によりますと、2025年の１世帯当たりの「郵便料」の年間支出額は2,879円となっておりまして、年間消費支出額に占める割合は約0.08％となっております。

月別に見ますと、11月と12月の合計支出額が年間支出額の５割以上を占めておりまして、年賀状がその主な要因であると考えられます。

また、一番下のグラフのとおり、推移を見てみますと、支出額、消費支出全体に占める割合ともに減少が続いておりまして、10年間で約４割程度減少しているところでございます。

続いて、参考資料２を御覧ください。こちらは郵便業務発展指数でございます。

前回の会合で、各国の郵便業務の品質水準の順位づけについて、日本郵便から紹介がございました。その最新の状況が、先週10月９日に万国郵便連合（ＵＰＵ）から公表されまして、日本は2026年も引き続き世界で最高水準国と認められたところでございますので、本日参考として御紹介をさせていただければと思います。

事務局からの説明は以上となります。どうぞよろしくお願いいたします。

○竹内主査　　御説明ありがとうございました。

ただいまの事務局からの御説明につきまして、皆様から御意見、御質問等いただきたいと思います。今回は特に指名ということはいたしませんので、どなたからでも結構でございますから、チャット機能を使うか、あるいは挙手機能にてお知らせください。いかがでございましょうか。

小林委員、どうぞお願いします。

○小林委員　　ありがとうございます。小林と申します。２点お伺いさせてください。

１点目ですが、関係団体へのヒアリングのところで分類いただいていると思うのですけれども、それぞれ大体何回というか、何名ぐらいを想定されて組まれているか教えていただけたらありがたいです。

また、ここに書かれていない内容として、この委員会の場でのヒアリングということではなく、事務局の皆さんで現場の方々、この項目の方々でもいいのですが、委員会の場だとかなり時間が短いと思うので、もう少し深くヒアリングをされる予定なのかを教えていただきたいです。

○竹内主査　　いかがでしょうか。

○渡部企画課信書便事業室長　　小林委員、ありがとうございます。２点御質問いただいてございます。

まず、１点目のヒアリングにつきまして、それぞれ何名程度お呼びする見込みかというところでございます。現時点で全て調整がついているわけではないので、確たることはなかなか申し上げにくいのですけれども、当面数回程度ヒアリングのためのこの委員会の会合を設けさせていただければと考えておりまして、１回当たりの時間も考えますと、大体１回当たり２から３、多くてプラスアルファというぐらいの方にヒアリングにお越しいただいて、御意見を伺うような形で進められればと考えております。具体的な調整は今現在進行中の部分がございますので、また調整が整いましたら、委員の皆様方に御案内をさせていただければと思っております。

それから、２点目の、この委員会でのヒアリングだけではなくて、事務局でのより詳細なヒアリングなども行うかどうかという点につきましては、そういった形で事務局のほうで、会議の場では時間の都合でお伺いできなかったようなことを補足的に聞かせていただくということは、必要に応じてやりたいと思いますし、前回の日本郵便のヒアリングの際もそうでございましたけれども、委員会の場で質問として聞き切れなかったことについては、委員の先生方からも、後日、メール等で質問いただければ、それをヒアリングの対象の方に事務局を通じて回答をお願いして、また委員会の場で御紹介をさせていただくといったことも考えたいと思いますので、以上のような形で今のところ予定をさせていただければと思っております。

以上です。

○小林委員　　ありがとうございます。

可能であればでいいのですけれども、地方の立場としては、人口規模とかエリアの特性

によってニーズが様々だと思っていまして、このヒアリングの中に、サービス利用者になるのでしょうか、地域に関してもう少し多様な観点から意見を伺える場ができたらありがたいと思っております。

以上です。

○竹内主査　　ありがとうございました。

では、続いて、順番に、木村委員から御発言御希望ございますから、木村委員、お願いいたします。

○木村委員　　主婦連合会の木村です。御説明ありがとうございます。

私からは１点質問があるのですけれども、基本的な考え方の３ポツ目のところで、利用者へのアンケートを通じてとあるのですけれども、このアンケートは、先日お示ししていただいたアンケート結果のことなのか、それとも今後新たに実施するものなのか、具体的に教えていただけませんか。

○渡部企画課信書便事業室長　　事務局でございます。木村委員、ありがとうございます。

アンケート調査につきましては、第１回会合で事務局から御紹介させていただいた既に実施したものもございますし、今後、この委員会における議論の進展に応じまして、より詳細な方向性、選択肢のようなものが少し見えてきましたら、そういったものも含めまして、再度事務局で利用者へのアンケート調査をやることも視野に入れてございますので、既にやったもの、それから今後議論の進捗に応じて実施していくもの、両方視野に入れているところでございます。

○木村委員　　ありがとうございます。

１回目に示していただいたものは、多分全体でなくて部分的なものだったと思うのですけれども、これを今後もう少し公開していただくという理解でよろしいですか。

○渡部企画課信書便事業室長　　ありがとうございます。

前回お示ししたものは総務省で昨年度実施したものの一部でございます。今後の議論の進捗に応じまして、全てについては非常に膨大なものになりますので、議論と関連する部分を中心に、今後、その内容に応じて、必要な部分についてはお出しするということも検討させていただければと思いますし、昨年実施したものについては、かなり抽象度の高いものでございますので、今後の検討に当たって、まだ十分利用者の意向が取り切れていない部分もございますので、そういったところについては、今後実施していくアンケートで、追加的に利用者の動向などを把握するような形で進めていければと思ってございま

す。

以上です。

○木村委員　　ありがとうございます。

利用者といってもいろいろな方がいらっしゃいますので、どういうふうにクロスをつけていくかというのが集計の腕の見せどころだと思いますので、そこも含めて、ぜひよろしくお願いいたします。

以上です。

○竹内主査　　ありがとうございます。

では、続いて東條委員からお願いいたします。

○東條委員　　ありがとうございます。

私のほうからは、２点になるのか、１点なのかちょっと分かりませんが、資料３－１で基本的な考え方として囲ってあるところの上２つの観点というのは、いずれも非常に重要だというふうに理解しております。

特に、この２番目ですけれども、日本郵便における徹底的なコスト削減、それから他社との協業を通じた多様な利用者ニーズへの対応を含めた云々ということで、日本郵便の企業努力、経営上の努力、あるいは創意工夫の発揮ということが前提となった上で、この審議会でも様々なことを議論していくという話になっていると思います。

前回の日本郵便のスライド、プレゼンの中で、収支改善計画というのが数字だけ出てきて、何も改善のアクションを起こさなければ3,959億円の赤字なんだけれども、2,268億円の収支改善を見込んでいるので、残りは1,691億円の赤字ですという説明がされました。数字だけが示されたわけですが、私ども審議会として、この数字の確かさというのをある程度検証する機会が、今後ヒアリングの過程で与えられるのかどうか、事務局の感触をお伺いしたいのですけれども、いかがでしょうか。

○竹内主査　　いかがでしょう。お願いします。

○渡部企画課信書便事業室長　　事務局でございます。

前回日本郵便からプレゼンテーションいただいた収支改善計画の具体的な内容について、委員の先生方からの御希望といいますか、今後の審議に当たって、そこの確からしさ、検証というのが行われないとなかなか次のステップに議論が進めないというようなところがありましたら、日本郵便に追加的にヒアリングをする機会、もしくは書面での対応も含めて、より詳細にお伺いする機会というのは、今後の審議の中でしかるべくそういった

場を設けることは調整可能だと思いますので、主査の竹内先生とも御相談させていただきながら調整できればと思います。

今回の資料３－１の関係団体へのヒアリングの中では、引き続き日本郵便も入れておりますので、前回、郵便事業の現状と課題について日本郵便から御発表いただきましたけれども、その課題を受けて、今後どういうふうにしていきたいのか、それに当たってどんな制度的、その他のことも含めた対応が必要なのかということについては、日本郵便サイドでも、今後の検討が深まった段階で、この委員会にインプットしていただく機会もあろうかと思いますので、日本郵便側の準備の状況なども踏まえまして、今後調整をさせていただければと思います。

○東條委員　　ありがとうございました。

もちろん、開催方法はクローズにするとか、いろいろと工夫の仕方はあると思いますので、ぜひその辺りも検証できるようにしていただければと思います。よろしくお願いします。

○竹内主査　　ありがとうございました。

では、続きまして、高橋委員より御発言をお願いいたします。

○高橋主査代理　　高橋です。感想と質問と要望がありまして、感想としては、参考資料１、１世帯当たりの郵便料の消費支出、私がお願いして探してもらったのですが、私の想像以上に減っているというのにちょっとびっくりしました。これが感想です。

要望なのですが、２つありまして、先ほど小林委員からも御指摘ありましたけれども、やっぱり地域差というのを考えて設計しないといけないというので、それを考慮に入れるためのヒアリングの工夫、どういう方をお呼びしてお話を聞くのかとか、そういうのも工夫していただきたいなというのが１つ目の要望です。２つ目の要望が、今映し出されている資料３－１にもありますが、コスト削減を徹底的にやられているということで、かなり日本郵便さんも努力されていると思うのですが、そこで、これは乾き切った雑巾でもう絞れないよという部分と、まだちょっと削減の余地がある部分と、クローズな会議で結構なので、できれば示していただけないかなと思っています。

一つ、これは事務局に質問なのですが、参考資料２、ずっと最高水準ということを日本は評価されているということなのですけれども、これはもう維持していくという前提で話を進めていくということでいいのですよねというのが質問です。

以上です。

○竹内主査　　御要望、御質問ありましたけれども、いかがですか。

○渡部企画課信書便事業室長　　事務局でございます。

まず、ヒアリングの、特に地域差を考慮できるような形での進め方について御要望いただきまして、特に自治体や地方の声というところ、都市部と地方部で大きく違うところもあるかと思いますので、そういった地域差が把握できるような形でヒアリングを調整させていただければと思ってございます。

それから、日本郵便の様々なコスト削減努力に関しまして、もうこれが限界なのか、もう少し余地があるのかといった点も含めた、より詳細な部分につきましては、先生から今いただきましたようなクローズでの開催も含めて、今後検討させていただきたいと思います。

それから、最後にございました郵便の国際的なランキングのところでございます。今、日本は、世界最高水準国として継続して認められているところでございます。我々としましては、やっぱりこれは世界に誇るべきことだと思いますので、こういった世界最高水準というところを引き続き世界にもお認めいただけるような形でやっていく、検討を進めていくというふうに、これはやりたいなと思っておりますので、今後の検討に向けて、こういったところも意識しながら進めていくということでいかがかと思っております。

○竹内主査　　ありがとうございます。よろしいでしょうか。

○高橋主査代理　　ありがとうございました。

○竹内主査　　ありがとうございます。

では、桑津委員からお願いいたします。

○桑津委員　　桑津です。遅くなりまして申し訳ございません。

私の質問もお二方がおっしゃられたところと基本的には同じでございまして、大変大きな経営努力をされるというところで、細かい点や揚げ足を取るつもりはもちろんありませんが、やれそうなところと、過去やってきたけどやっぱり難しかったところとか、幾つか色合いがあるかなと思っておりまして、もう一段だけ、ここのところ感触をお伺いできればなと思いました。

進め方の形等につきましては、文書でも結構ですし、個別の打合せでも、それは結構でございますので、事務局様にお任せします。

以上です。

○竹内主査　　お願いいたします。

○渡部企画課信書便事業室長　　事務局でございます。

先ほど来、ほかの先生からもいただいたコメントかと思いますので、桑津先生からの御指摘も踏まえて、今後検討させていただければと思います。

ありがとうございます。

○竹内主査　　よろしいですかね。

それでは、三尾委員からお願いできますでしょうか。

○三尾委員　　ありがとうございます。

ほかの先生からも御質問、御意見あったとおりで、あまり追加ではないのですけれども、まず、今日お示しいただいた資料３－１に書かれている内容、方向性については、これで進めていただくことについて異論はありません。

１点、参考資料１で説明いただいた個人の利用料の推移なのですけれども、この説明の中で、個人は２割であるということで、８割が団体・企業の利用ということなので、これは日本郵便の収支全体がどうなっていくのかという把握がまず必要ではないかなと思いますので、そちらのほうも含めて、今後、将来も含めて、どのように収支が変化していくのかということをまず把握させていただきたいというところが１点ございます。

あとは、コスト削減を努力されているということなのですが、もう十分に評価させていただいているところなのですけれども、コスト削減だけだと限界があると思うのですね。日本の考え方としても、コスト削減に注目するということはすごく多いと思うのですけれども、やはり収入を増やしていくという方向性が大きく収支を改善していくには絶対必要だと思いますので、その観点をもう少し重視していただきたいなというところがございます。

参考資料２のほうで書いていただいた国際的な評価なのですけれども、これも様々な指標がありまして、例えば、信頼性だったりとか、郵便の確実な配達だったりというところについては、やはり日本は大きな評価を得ていると思うのですけれども、それ以外の国際郵便の接続性とか、経済生活への関連性、レジリエンスとか、そういった、郵便をきちんとユニバーサルサービスとして配達するという以外にも、郵便事業に対する評価というのはあると思うのですよね。

なので、日本が最高水準を維持するということはもちろんそうなのですけれども、どういった部分を注視していくのか、それ以外についても重要な要素があるということを忘れないで、そちらのほうも併せて検討していただくということをしないと、きちんと遅配

なく郵便を届けることができるということだけにこだわるのであれば、やはりそこはどこか限界にぶち当たってしまうと思うのですよね。そういう昨今の情勢なので、そういった背景も十分踏まえた上で、やはり意見照会をするとかヒアリングをするといったこともやらないと、今の直近のサービスの継続だけを求めてしまうというのであれば、この委員会の意義というのもないと思いますので、アンケートや意見照会の書き方も十分注意していただいて、皆さんに情報提供をまずして、それから意見を伺うというような方向で進めていただきたいと思います。

以上です。

○竹内主査　　お願いいたします。

○渡部企画課信書便事業室長　　事務局でございます。三尾委員、ありがとうございます。

まず、１点目の日本郵便の今後の収支の推移、特に個人だけではなくて、８割を占める法人の大口の部分も含めた形での収支の推移を明らかにしてほしいというところでございます。日本郵便の郵便事業の収支の推移については、前回の日本郵便からのヒアリングの際に、当面の収支の見通しというのは既にお示しいただいているところかと思います。さらに、それがその後、どういった形で推移していく見通しなのかといったところも含めた詳細は、また今後、日本郵便に、先ほどのコストの削減のところも含めた取組について聞くような機会で、より詳しく御説明をいただくような形で今後、調整、検討させていただければと思います。

それから、大口の法人の利用の部分に関しましては、資料３－１にございますけれども、関係団体へのヒアリングのところで、郵便サービスの利用者として、大口利用者たる法人というふうに書かせていただいておりますけれども、この大口利用をしているような利用者の団体もございますので、そういったところにヒアリングの際に、今後の郵便の利用の見通しも含めて、併せてお聞きするということもできるようにしていきたいと思っているところでございます。

それから、２点目の、コスト削減だけではなくて収入のほうを増やしていくような努力というのも必要ではないかという御指摘、まさにおっしゃるとおりかと思います。日本郵便でも、これまでも収入・収益面での拡大の努力というのもされてきてございますけれども、より一段踏み込んだ対応を考えられるのかどうなのかというのも含めて、また今後のヒアリング等々の中で、併せてより詳細に確認していくことをできればと思っておりますので、引き続き、調整をさせていただければと思います。

○三尾委員　　ありがとうございます。

○竹内主査　　よろしいでしょうか。

ありがとうございました。私のほうからも３点ばかりお話をさせていただければと思います。

まず１点目、資料３－１の意見募集の話です。こちらで（２）の①のサービスの在り方というところで、これは聞き方の問題だと思うのですが、サービスの在り方はどうあるべきでしょうかなんていう聞き方をすると、恐らく回答する側の方は、料金はとにかく安く、そして、毎日配達で、できるだけ早い到着を待つみたいな、要するに、もう無い物ねだりというのか、そういうことばかり言われてしまう気がするのですよね。要望ばかりになってしまって、あれも嫌、これも嫌ということになってしまったら、聞くこと自身の意味がなくなってしまうので、聞くときには、何を優先するために何を諦める用意があるかというようなことをちゃんと答えていただけるような、そういう内容であってほしいと思うのです。そうでないと、あまり意味がない意見募集になってしまいますので、回答者の優先度が分かるようなことも考えていただけると思います。

また、②のほうの課題及びその対応のところも、例えば、そのすぐ下のところですが、持続的な運営と、確保すべき郵便のユニバーサルサービス水準のバランスをどのように考えるかなんていうのは、これも単純に聞いたら、両方必要であると答えられてしまったら、もうどうしようもないことになるわけです。どちらを重視して、どちらをどれほど譲歩することができるのかということが分かるような、なかなか聞き方が難しいことは重々承知なのですけれども、なるべくそういう意見を引き出せるような意見募集をしていただきたいなという気がしております。それが１点目です。

それから、２点目は、資料３－１のヒアリングなのですけれども、どういう方に伺うかというところなのですが、やはり現場のことをよく知りたいので、私としては、日本郵便のいわゆる下請、受託している事業者さんたち、実際現場で足を使っている方々が一体どういうような御苦労があるのか、また、どういうところで、これを改善すればもっとうまくいくのにと思いながらも言えない、下請である以上言えなかったりはあると思うのですよね。なので、そういうようなことで自由に発言できるような場をつくっていただいて、そこでそういう下請とか現場で働く受託している事業者さんの御意見を伺いたいなと思います。もちろん、元請さんがいると発言しにくいでしょうから、元請さんに席を外してもらうとか、あるいは事業者さんの名前を伏せるとか、その辺の守秘義務を徹底して、そ

ういうことを聞きたいなという気がしております。

それから、ここでは連携するとか協業とかというのはありますけれども、私は、むしろライバル関係にある競合する事業者さん、例えば、郵便でも、小包系のものだったらヤマトさんとか佐川さんとかもありますし、あるいは、むしろもっと大きなｅメールの事業者さんとか、そんなところも呼んできて、端から見たらどう思うかというような、そういう意見も聞ければいいなと思いますので、もしも可能であれば、その点もお考えいただきたいと思います。

３点目なのですが、参考資料２のところで、先ほども高橋委員がおっしゃったような気もするのですが、2017年からずっとこの高い順位を確保している、これは本当にいいことだなということは確かなのです。ただ、反面、この高い水準を維持するために、ほかの上位にある国よりはるかに費用をかけてこの地位を確保しているとするならば、これはかえって費用対効果は悪くて、私は必ずしも望ましいと思わないのですよね。もしも、ここに名前が出ないけれども、次点ぐらいのサービス水準で、その代わりコストはものすごく安くやっているというなら、よっぽどそのほうが郵便サービスは価値があると私は思っているのですよ。なので、高い地位をコストをかけて死守するということではなくて、いかにコストを下げているかというところ、それができるということが本当の意味があることだと思うので、費用のことを無視しないで考えていってほしいというのが、参考資料２に関する私のコメントです。

以上３点でございますけれども、何かございましたらお願いいたします。

○渡部企画課信書便事業室長　　事務局でございます。

まず、意見募集の実施方法につきましては、竹内主査から御指摘ありましたように、より何を優先すべきかといった点も引き出せるような形で、少し工夫をした形で進めるように検討させていただきたいと思います。

それから、ヒアリングの対象者でございますけれども、御指摘ございました日本郵便の下請受託者、競合する事業者としての宅配ですとか、広い意味でのデジタル関係の事業者、この辺もどういったところが可能かというのを検討させていただきまして、調整がつきましたらヒアリングにお招きをするということで進めさせていただければと思います。

最後、３点目の国際的な比較のところでございます。先生御指摘のとおりで、このランキングを維持するためだけに多大なコストを費やすということになれば、それは本末転倒かと思います。ただ、このランキングの出し方についても、そういった費用対効果とい

いますか、いかに効率的に郵便のサービスが持続的にされているのかというのも評価指標になった上でのランキングと認識しておりますので、あまり恣意的にコストをかけて特定の数値だけを上げるということで出されているような指数ではないと認識しておりまして、仮にそういった形で指数の出し方がやや偏っているということであれば、我が国としても、万国郵便連合の加盟国として、より効率的・持続的に郵便サービスを提供しているということが適正に評価されるような形でのやり方を提案していくという取組も一方で必要かなと思いますので、いずれにしましても、先生の御指摘も踏まえまして、こちらのほうの対応も今後進めていければと思います。

ありがとうございます。

○竹内主査　御回答ありがとうございました。

一通り皆様から御発言頂戴しましたけれども、何かほかに言い忘れたというようなことはございますか。追加であれば、今お伺いいたしますが、よろしいでしょうか。

では、特に追加での御質問、御意見等はないというように思います。

それでは、事務局から御説明ありましたように、本委員会における議論の参考とするために、「利用者ニーズを踏まえた郵便サービスの在り方や今後の郵便ネットワークの維持に向けた課題及びその対応」ということについて意見募集を実施していきたい、あるいはまた、ヒアリングもしていきたいと思います。ただ、今、皆様からいろいろな御意見を頂戴していますので、これらをぜひ参考にして、今後のヒアリング並びに意見募集については工夫をしていっていただければありがたいと思います。そういうことでよろしいですかね。

では、そういうことでさせていただきたいと思います。

ヒアリングも次回以降ということで予定されておりますので、なかなか限られた時間で難しいところはあると思いますけれども、うまく調整して進めていただければと思います。

本日用意しておりました議事は以上ということになります。皆様、全体を通しては何かございますでしょうか。よろしいですか。

よろしいようでしたら、最後、事務局から連絡事項についてお話をいただければと思います。

○笹川郵便課課長補佐　事務局でございます。委員の先生方、本日も活発に御議論いただきましてありがとうございました。

次回の委員会の開催日程につきましては、事務局から別途御連絡をさせていただきます。

以上でございます。

○竹内主査　　ありがとうございました。

閉　　会

○竹内主査　　それでは、本日はこれにて終了ということにいたします。皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。